

浸水後の家屋への適切な対応

衛生対策の5つのステップ

時間を決めて休憩と水分補給をして、体調に十分気をつけて作業してください

1. 泥やゴミの除去

2. 洗浄

3. 乾燥

消毒の前にまずは、泥やゴミの除去、洗浄、乾燥が大事！

4. 消毒

床下の消毒は
原則不要です

5. 最後に徹底的に乾燥

床上浸水
の場合

床下浸水
の場合



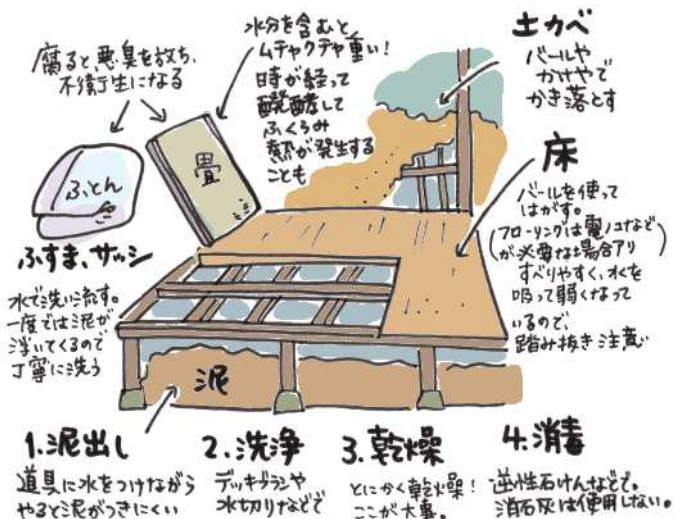
1. 泥やゴミの除去

- ・まず泥やゴミが入っていないか
- ・床下浸水でも水が残っていないかを確認しましょう

□ 床下を掃除し、泥やゴミを除去する

時間が経つほど水分が湿気となり、カビや異臭の原因になります。できるだけ早く作業に着手するようにしましょう。

- 床下に水や泥などが入っていた場合、水を抜いてから泥を取り除く。



床に入るときは換気をし、2人以上で作業します

(泥やゴミ、水が残っていないかの確認方法)

A.床下を確認する(床はがし)

床下浸水でも必ず確認することをお勧めします

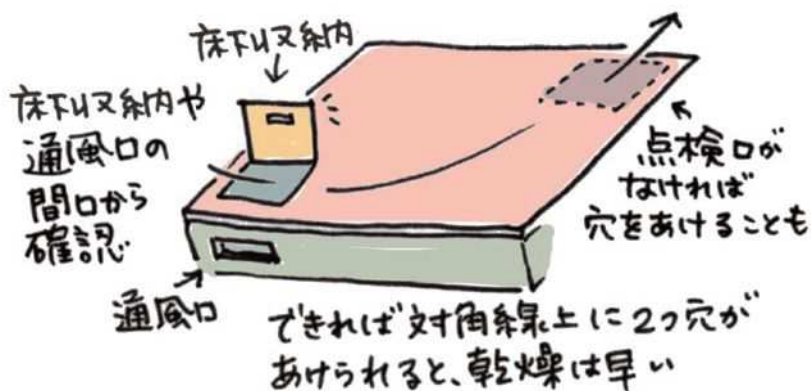
和室の場合

- ・ 畳の下にある板をはがす。
- ・ 板は無垢材なら洗浄して陰干しすれば再利用可能。
- ・ どの部屋の何番目なのか「印」をつけてから外す。



洋室の場合

- ・ 床下収納、点検口を開ける。
- ・ 床下に水や泥があれば除去。
- ・ 点検口などが無い場合は、工務店などで作ってもらう。
(相場は2～3万円)



ここも忘れずに！ 通風口の見えない基礎の確認



この部分に泥等が詰まっていると床下の空気が滞留する

B.壁材 床上浸水の場合、工務店などと相談し点検

壁材に関しては工務店などに相談・点検し、撤去等のご検討をお願いします。

2. 洗淨

- ・泥やゴミが付着した部分は**必ず**洗淨しましょう。
- ・臭いやカビの原因となります。

- ・けがを防ぐために厚手のゴム手袋、ゴム長靴（あればゴーグルをつけて目も保護します）、ほこりを吸い込まないためにマスクを付けて清掃に当たります。
- ・（固い）床、壁、金属部分、調理台、シンクなどは水と石けん（洗濯石けんや食器洗剤）で洗い流し、泥や破片を取り除きます。
- ・高圧洗淨機を用いると効果的に洗淨できますが、その際は、マスクを着用し、換気に気をつけます。
- ・浸水して洗うことのできない家具（カーペット、布製ソファ等）は撤去します。

道具用途一覧



3. 乾燥

洗浄のあとは、乾燥が必要になります



【乾燥のポイント】

- ★晴れた日は窓を開けて、外の空気を取り込みましょう。
 - ★床下の点検口などを開け、できるだけ外気を床下に送り込むようにしましょう。
 - ★灯油は燃焼時に水分を発するので使用は控えましょう。
 - ★換気扇も活用しましょう。
- 湿った空気が留まらないように、空気を動かすことが大切です

4. 消毒

床下は原則、**消毒不要**です。

床上部分を消毒する場合も1～3の工程が不十分だと消毒の効果が発揮できません。

出典：厚生労働省

主な消毒液と使用方法

- ゴム手袋・長靴、ゴーグル等を着用して作業しましょう！**
(換気をしっかりすること)
- 次亜塩素酸ナトリウム** ※金属部分には付着しないように！
汚染の程度がひどい場合、長時間浸水していた場合に使います
- アルコール、塩化ベンザルコニウム**
色あせ、腐食などにより次亜塩素酸ナトリウムが使用できない場合に使います

消毒薬	対象と使い方	
	食器類・流し台・浴槽	家具類・床
次亜塩素酸ナトリウム (家庭用塩素系漂白剤でも可)	0.02%に希釈する ① 食器用洗剤と水で洗う。 ② 希釈した消毒液に5分間漬けるか、消毒液を含ませた布で拭き、その後、水洗い・水拭きする。 ③ よく乾燥させる。	0.1%に希釈する ① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ② 調整した液を浸した布などでよく拭く。 ③ 金属面や木面など色あせが気になる場所は、水で2度拭きする。
消毒用アルコール	希釈せず、原液のまま使用する ① 洗剤と水で洗う。 ② アルコールを含ませた布で拭く。 ※70%以上のアルコール濃度のものを使用すること ※火気のあるところでは使用しない	希釈せず、原液のまま使用する ① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ② アルコールを含ませた布で拭く。 ※70%以上のアルコール濃度のものを使用すること ※火気のあるところでは使用しない
10%塩化ベンザルコニウム (逆性石けん)	0.1%に希釈する ① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ② 調整した液を浸した布などでよく拭く。	0.1%に希釈する ① 泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ② 調整した液を浸した布などでよく拭く。

参考：日本環境感染学会 一般家屋における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法

5. 最後に**徹底的に**乾燥

乾燥が不十分だとカビや臭い・腐敗の原因となります。

3と同様の方法でしっかり乾燥をしましょう！
とにかく乾燥を！

※本資料は、震災がつなぐ全国ネットワーク、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード発行資料より引用し、作成しています

石川県健康福祉部健康推進課 作成